レラ1~6

太さ6種、クセがなく読みやすいプレーンな丸ゴシック書体

「レラ」は、風という意味のアイヌ語です

真白に凍てつく山や川 キツネも熊も眠るころ Eをピューと吹く風は ここで育った君たちに 生きる厳しさ憶えろと 大地が奏でる子守り唄

●Macintoshをお使いの皆様へ

このフォントは、OS X 専用です(OS 9 以前のOSでは認識されません)
※フォントメニューに正しく表示されず、使えないアプリもあります
※アプリによっては、フォントメニューに英字名で表示される場合があります
※アプリによっては、まったく文字入力できず使えない場合もあります
※アプリによっては、拡張文字の一部が文字化けする場合もあります
商品を購入する前に、ご使用予定のアプリで必ず上記の不具合をご確認ください

プレーンな丸ゴシック書体 レラ1

海の見えるテラスでコーヒーを飲んでから、昨晩カップ麺を

店の人はまだ寝起きの顔で支度をする気もないし、ビール瓶 の返却値段でも少しモメた。この店をあきらめ、マゼラン・ クロス近くの市場へ向かう。

昨日と同じ道をまた歩く。右手遠くの海を眺めながらのんび りと緩い坂道を下る。(8pt.)

食べた店にビール瓶を返却がてら朝食に行った。 7 時少し前 で、ちょっと早い気がしたがやはり準備ができていない。約

何組みかの家族連れと擦れ違う。こちらのテンションもまだ低 く、特に言葉を交わすわけではないが、互いに立ち停る。

興味津々の瞳と笑顔の子供たち。ただ観察しあって、伝わらな い言葉を何度か発し、インスタント写真を撮ってあげる。

たった数分間の静かな交流。彼らは長い影を道に映しながらゆ つくりと去っていく。

市場を入ったすぐ右側。総菜の入った鍋を5~6個店頭に並べ た食堂に決め、ひとつずつ鍋のフタをあけ料理を確認。

魚のシニガンスープ、魚の唐揚げ、アズキによく似た豆を煮た もの、コーラ、ライス1皿を注文。

どれも美味しく食べられたので、明日から朝はこの店で食べる ことに決定。愛想のいい娘さんが心をほぐしてくれるので楽し い食事だった。(9pt.)

ホテ ル ίÌ ひと休みすると午前9

ル で身体の 火照り を冷ま す。 テニスコートで汗を出し た 後 13

き氷が 昼食は、 しっかり 入っ 「昼寝をし 食を 小さなバ たクリ たべ した後の ナナとビー た店で Δ あ 挨拶を 夕刻5時。 んみ うみ ル。 かねてビ そし たいなもの 朝、 てフ 偵察し 1 ル IJ た市 名 場 物 向かう。 \mathcal{O} /\ /\ か

上に張り

出したテラスで食事ができる魚介類の

(もウチで食べろと誘われ

たが、

>

・フード

- が食べ

店

二は中 イカは

華風

点に炒め

て貰い、

ライスとビ

ル

の超 に、

特大ビン2本

ハマグリは殼付きでバ

ター

チに、

美しい少女が座っている…。

化粧気の全く無い健康そうな少女。

灯りの下の

大した会話もできない

我々はゆつく

我々はフラフラと死にかけの蛾のように店の灯りに寄っていく。

キラウィン

(フィリピン風の刺身)

語と英語と日本語の飲み会。

(10pt.)

きの店の出戻り看板娘ボニータも

つも間にか参加して、

2時間ほどのタガログ

年の男……情けない。

でもきちんと写真は撮らせて貰った。

いから涼みにきているらしい十五歳の美少女に緊張

殆ど閉まり、 食代金は全部で1500 場はうす暗くなってい 円ほど。 腹だ。

朝食後、市場内で夕食用のレストランを物色する。熱帯特有の極彩色の魚を 並べている店の殆どが、奥に座席を用意し、買った魚介類をその場で調理し 食べさせてくれるようになっている。 海に張り出したテラスを持つ店に入り、少し見学させてもらう。

美しい夕焼けを見ながらの、冷たいビールと美味しい魚介類の夕食。日焼け した肌を夜の潮風が心地好く撫でていく…そんなことを想像しながら海上テ ラスの椅子に座った。

しかし…目の前には灰色のドロドロの海。ちょうど干潮の時間なのだ。膝く らいまで潮が引き、濁った海の中をビニール袋を持った人達が徘徊し、小魚 やエビ・カニを捕っている。

変なニオイも鼻につく…。これは下水道特有のものだ。ここの市場のさまざ まな排泄物(!)がたれ流しにされているらしい。(10pt.)

富栄養化された海には沢山の魚介類が育つ…。それらが市場で 売られ食べられ排泄され、それを食べて大きく育ち、捕られ売 られ食べられ…と、究極の食物連鎖が続いているのだ。

市場の中の店はすべて同じ状況なのだ。我々が泊まっている豪 華なホテルだって、この市場から魚介類を仕入れてるかもしれ ないのだし。ここで見たものはすべて忘れよう!(12pt.)

たい を1 からと、 本 () ただく。 その 店を出て海 (12pt.) 何日 ホテルへ戻る道の右側にオレンジ色の街灯に照らされた侘びしい店が1 か、 脇を通り過ぎているサリ・サリ・ストア 勘定を済ませ外へ出ると周りの店は

りとホテルへの暗い道を歩いた。 蒸し暑い南国の夜。 肌にまとわりつく生温かい風を楽しむように、

(C)2019 Yutaka Satoh / TYPE-LABO

書体制作の日々、番外編より抜粋編集

レラ2 プレーンな丸ゴシック書体

海の見えるテラスでコーヒーを飲んでから、昨晩カップ麺を

で、ちょっと早い気がしたがやはり準備ができていない。約 束しておいたんだがな…。 店の人はまだ寝起きの顔で支度をする気もないし、ビール瓶

クロス近くの市場へ向かう。 昨日と同じ道をまた歩く。右手遠くの海を眺めながらのんび

食べた店にビール瓶を返却がてら朝食に行った。 7 時少し前 の返却値段でも少しモメた。この店をあきらめ、マゼラン・

りと緩い坂道を下る。(8pt.)

何組みかの家族連れと擦れ違う。こちらのテンションもまだ低 く、特に言葉を交わすわけではないが、互いに立ち停る。

興味津々の瞳と笑顔の子供たち。ただ観察しあって、伝わらな い言葉を何度か発し、インスタント写真を撮ってあげる。

たった数分間の静かな交流。彼らは長い影を道に映しながらゆ つくりと去っていく。

市場を入ったすぐ右側。総菜の入った鍋を5~6個店頭に並べ た食堂に決め、ひとつずつ鍋のフタをあけ料理を確認。

魚のシニガンスープ、魚の唐揚げ、アズキによく似た豆を煮た もの、コーラ、ライス1皿を注文。

どれも美味しく食べられたので、明日から朝はこの店で食べる ことに決定。愛想のいい娘さんが心をほぐしてくれるので楽し い食事だった。(9pt.)

ホテ ル ίĵ ひと休みすると午前9 時。

ル で身体の 火照りを冷ま す。 テニスコートで汗を出した 後 は

き氷が 昼食 は、 **つ** たクリ ななバナナとビー Δ あ んみ ル つみたいなもの) そし てフィ IJ 名 物 \mathcal{O} /\ /\ か

しっかり昼寝をした後の夕刻5時。 食をたべ た店で挨拶を かねてビ 朝、 偵察した市場 ル を1本 いし ただく。 向かう。 (12pt.)

上に張り もウチで食べろと誘われ [、]出したテラスで食事ができる魚介類の たが、 シー フード -が食べ 店 たい からと、 その 店を出て海

二は中語 イカはキラウィン 華 一風に炒め て貰い、 (フィリ ライスとビ ・ピン風の刺身) ル ん の 超 に ハマグリは殼付きでバ 特大ビン2本。 ター 焼

語と英語と日本語の飲み会。

(10pt.)

さっきの店の出戻り看板娘ボニータも

いつも間にか参加して、

2時間ほどのタガログ

りとホテルへの暗い道を歩いた。

蒸し暑い南国の夜。

肌にまとわりつく生温かい風を楽しむように、

我々はゆつく

もきちんと写真は撮らせて貰った。

年の男……情けな

朝食後、市場内で夕食用のレストランを物色する。熱帯特有の極彩色の魚を 並べている店の殆どが、奥に座席を用意し、買った魚介類をその場で調理し 食べさせてくれるようになっている。

海に張り出したテラスを持つ店に入り、少し見学させてもらう。

美しい夕焼けを見ながらの、冷たいビールと美味しい魚介類の夕食。日焼け した肌を夜の潮風が心地好く撫でていく…そんなことを想像しながら海上テ ラスの椅子に座った。

しかし…目の前には灰色のドロドロの海。ちょうど干潮の時間なのだ。膝く らいまで潮が引き、濁った海の中をビニール袋を持った人達が徘徊し、小魚 やエビ・カニを捕っている。

変なニオイも鼻につく…。これは下水道特有のものだ。ここの市場のさまざ まな排泄物(!)がたれ流しにされているらしい。(10pt.)

富栄養化された海には沢山の魚介類が育つ…。それらが市場で 売られ食べられ排泄され、それを食べて大きく育ち、捕られ売 られ食べられ…と、究極の食物連鎖が続いているのだ。

市場の中の店はすべて同じ状況なのだ。我々が泊まっている豪 華なホテルだって、この市場から魚介類を仕入れてるかもしれ ないのだし。ここで見たものはすべて忘れよう!(12pt.)

食代金は全部 で150 円ほど。 満 腹だ。 勘定を済ませ外へ出ると周りの

チに、 我々はフラフラと死にかけの蛾のように店の灯りに寄っていく。 殆ど閉まり、 ホテルへ戻る道の右側にオレンジ色の街灯に照らされた侘びしい店が1 \Box いから涼みにきているらしい十五歳の美少女に緊張 か、 美しい少女が座っている…。 脇を通り過ぎているサリ・サリ・ストアーだ。 場はうす暗くなってい 化粧気の 全く無い健康そうな少女。 大した会話もできな 灯りの下の

書体制作の日々、番外編より抜粋編集

プレーンな丸ゴシック書体 レラ3

海の見えるテラスでコーヒーを飲んでから、昨晩カップ麺を 食べた店にビール瓶を返却がてら朝食に行った。 7 時少し前

の返却値段でも少しモメた。この店をあきらめ、マゼラン・ クロス近くの市場へ向かう。

昨日と同じ道をまた歩く。右手遠くの海を眺めながらのんび りと緩い坂道を下る。(8pt.)

で、ちょっと早い気がしたがやはり準備ができていない。約 束しておいたんだがな…。 店の人はまだ寝起きの顔で支度をする気もないし、ビール瓶

何組みかの家族連れと擦れ違う。こちらのテンションもまだ低 く、特に言葉を交わすわけではないが、互いに立ち停る。

興味津々の瞳と笑顔の子供たち。ただ観察しあって、伝わらな い言葉を何度か発し、インスタント写真を撮ってあげる。

たった数分間の静かな交流。彼らは長い影を道に映しながらゆ つくりと去っていく。

市場を入ったすぐ右側。総菜の入った鍋を5~6個店頭に並べ た食堂に決め、ひとつずつ鍋のフタをあけ料理を確認。

魚のシニガンスープ、魚の唐揚げ、アズキによく似た豆を煮た もの、コーラ、ライス1皿を注文。

どれも美味しく食べられたので、明日から朝はこの店で食べる ことに決定。愛想のいい娘さんが心をほぐしてくれるので楽し い食事だった。(9pt.)

ホテル りひと休みすると午前9 時。

ル で身体の 火照りを冷ます。 テニスコートで汗を出した後 は

昼食は、 き氷が入っ しっかり昼寝をした後の夕刻5時。 小さなバナナとビー たクリ ĺ Δ あ んみつみたいなもの) ル そしてフィ 朝 偵察した市場 IJ シ 名 物 へ向かう。 0 ١١ /١ か

朝 食をたべ た店で挨拶をかねてビー ル を1本 ĺ١ ただく。

上に張り出したテラスで食事ができる魚介類の (もウチで食べろと誘われ たが、 シーフードが食べ 店 たい からと、 その店を出て海

イカはキラウィン (フィリピン風の刺身) に ハマグリは殼付きでバ ター 焼 泥

さっきの店の出戻り看板娘ボニータもいつも間にか参加して、 二は中華風に炒め で貰い、 ライスとビー ルの超特大ビン2本。 2時間ほどのタガログ

語と英語と日本語の飲み会。

(10pt.)

りとホテルへの暗い道を歩いた。

蒸し暑い南国の夜。 中年の男……情けな

肌にまとわりつく生温かい風を楽しむように、

我々はゆつく

でもきちんと写真は撮らせて貰った。

朝食後、市場内で夕食用のレストランを物色する。熱帯特有の極彩色の魚を 並べている店の殆どが、奥に座席を用意し、買った魚介類をその場で調理し 食べさせてくれるようになっている。

海に張り出したテラスを持つ店に入り、少し見学させてもらう。

美しい夕焼けを見ながらの、冷たいビールと美味しい魚介類の夕食。日焼け した肌を夜の潮風が心地好く撫でていく…そんなことを想像しながら海上テ ラスの椅子に座った。

しかし…目の前には灰色のドロドロの海。ちょうど干潮の時間なのだ。膝く らいまで潮が引き、濁った海の中をビニール袋を持った人達が徘徊し、小魚 やエビ・カニを捕っている。

変なニオイも鼻につく…。これは下水道特有のものだ。ここの市場のさまざ まな排泄物(!)がたれ流しにされているらしい。(10pt.)

富栄養化された海には沢山の魚介類が育つ…。それらが市場で 売られ食べられ排泄され、それを食べて大きく育ち、捕られ売 られ食べられ…と、究極の食物連鎖が続いているのだ。

市場の中の店はすべて同じ状況なのだ。我々が泊まっている豪 華なホテルだって、この市場から魚介類を仕入れてるかもしれ ないのだし。ここで見たものはすべて忘れよう!(12pt.)

食代金は全部 で1500円ほど。 満 腹だ。 勘定を済ませ外へ出ると周りの 店は

チに、 何日 我々はフラフラと死にかけの蛾のように店の灯りに寄っていく。 殆ど閉まり、 ホテルへ戻る道の右側にオレンジ色の街灯に照らされた侘びしい店が1 いから涼みにきているらしい十五歳の美少女に緊張し、 か、 美しい少女が座っている…。 脇を通り過ぎているサリ・サリ・ストアーだ。 市場はうす暗くなっていた。 化粧気の 全く無い健康そうな少女。 大した会話もできな 灯りの下の

書体制作の日々、番外編より抜粋編集

プレーンな丸ゴシック書体 レラ4

海の見えるテラスでコーヒーを飲んでから、昨晩カップ麺を 食べた店にビール瓶を返却がてら朝食に行った。 7 時少し前 で、ちょっと早い気がしたがやはり準備ができていない。約 束しておいたんだがな…。

店の人はまだ寝起きの顔で支度をする気もないし、ビール瓶 の返却値段でも少しモメた。この店をあきらめ、マゼラン・ クロス近くの市場へ向かう。

昨日と同じ道をまた歩く。右手遠くの海を眺めながらのんび りと緩い坂道を下る。(8pt.)

何組みかの家族連れと擦れ違う。こちらのテンションもまだ低 く、特に言葉を交わすわけではないが、互いに立ち停る。

興味津々の瞳と笑顔の子供たち。ただ観察しあって、伝わらな い言葉を何度か発し、インスタント写真を撮ってあげる。

たった数分間の静かな交流。彼らは長い影を道に映しながらゆ っくりと去っていく。

市場を入ったすぐ右側。総菜の入った鍋を5~6個店頭に並べ た食堂に決め、ひとつずつ鍋のフタをあけ料理を確認。

魚のシニガンスープ、魚の唐揚げ、アズキによく似た豆を煮た もの、コーラ、ライス1皿を注文。

どれも美味しく食べられたので、明日から朝はこの店で食べる ことに決定。愛想のいい娘さんが心をほぐしてくれるので楽し い食事だった。(9pt.)

ホテル ル で身体の火照りを冷ます。 (りひと休みすると午前9時。

テニスコートで汗を出した後

は

昼食は、 き氷が入っ しっかり昼寝をした後の夕刻5時。 朝 食をたべ 小さなバナナとビール。 たクリー た店で挨拶をかねてビー ムあ んみつみたいなもの) そしてフィリ 朝、 偵察した市場 ル えを1本いた 0 ピン名物 ただく。 へ向かう。 **ത /**\ (12pt.) /\ か

上に張り出したテラスで食事ができる魚介類の店 夕飯もウチで食べろと誘われたが、 シーフードが食べたい からと、 その店を出て海

イカはキラウィン (フィリピン風の刺身) に ハマグリは殼付きでバター 焼き、

さっきの店の出戻り看板娘ボニータもいつも間にか参加して、 ニは中華風に炒めて貰い、 ライスとビールの超特大ビン2本。 2時間ほどのタガログ

語と英語と日本語の飲み会。 (10pt.)

りとホテルへの暗い道を歩いた。

蒸し暑い南国の夜。

肌にまとわりつく生温かい風を楽しむように、

我々はゆっく

でもきちんと写真は撮らせて貰った。

いから涼みにきているらしい十五歳の美少女に緊張し、

大した会話もできな

朝食後、市場内で夕食用のレストランを物色する。熱帯特有の極彩色の魚を 並べている店の殆どが、奥に座席を用意し、買った魚介類をその場で調理し 食べさせてくれるようになっている。

海に張り出したテラスを持つ店に入り、少し見学させてもらう。

美しい夕焼けを見ながらの、冷たいビールと美味しい魚介類の夕食。日焼け した肌を夜の潮風が心地好く撫でていく…そんなことを想像しながら海上テ ラスの椅子に座った。

しかし…目の前には灰色のドロドロの海。ちょうど干潮の時間なのだ。膝く らいまで潮が引き、濁った海の中をビニール袋を持った人達が徘徊し、小魚 やエビ・カニを捕っている。

変なニオイも鼻につく…。これは下水道特有のものだ。ここの市場のさまざ まな排泄物(!)がたれ流しにされているらしい。(10pt.)

富栄養化された海には沢山の魚介類が育つ…。それらが市場で 売られ食べられ排泄され、それを食べて大きく育ち、捕られ売 られ食べられ…と、究極の食物連鎖が続いているのだ。

市場の中の店はすべて同じ状況なのだ。我々が泊まっている豪 華なホテルだって、この市場から魚介類を仕入れてるかもしれ ないのだし。ここで見たものはすべて忘れよう! (12pt.)

食代金は全部で1500円ほど。 満腹だ。 勘定を済ませ外へ出ると周りの店は

何日か、 チに、 我々はフラフラと死にかけの蛾のように店の灯りに寄っていく。 殆ど閉まり、 ホテルへ戻る道の右側にオレンジ色の街灯に照らされた侘びしい店が1軒。 美しい少女が座っている…。 脇を通り過ぎているサリ・サリ・ストアーだ。 市場はうす暗くなっていた。 化粧気の全く無い健康そうな少女。 灯りの下の

(C)2019 Yutaka Satoh / TYPE-LABO

マクタン島の思い出 書体制作の日々、番外編より抜粋編集 プレーンな丸ゴシック書体 レラ5

南国の夜

昼寝をした後の夕刻5時。きのう偵察しておいた市場へ。 まず、朝食を食べた店でビール を1本いただく。 ウチで食べていけと誘われたが シーフードが食べたいからと、 海の上に張り出したテラスで食 事ができる店へ向かった。

建っている。色の街灯に照らされた侘びしい店がホテルへ戻る道の右側に、オレンジ

) 大のだ…。 美しい少女が座って がの下のベンチ

サ

数

何

脇

を

通

31

寄

死

か

け

蛾

(1)

店

灯

ア

書体制作の日々、番外編より抜粋編集 プレーンな丸ゴシック書体 レラ6

南国の夜

昼寝をした後の夕刻5時。きのう偵察しておいた市場へ。 まず、朝食を食べた店でビールを1本いただく。 ウチで食べていけと誘われたがシーフードが食べたいからと、 海の上に張り出したテラスで食事ができる店へ向かった。

建っている。色の街灯に照らされた侘びしい店がホテルへ戻る道の右側に、オレンジ

いたのだ…。 美しい少女が座ったりのの下のベンチ

31

寄

死

か

け

蛾

(1)

店

灯

数

何

も

脇

を

通

過

●等幅フォント ASCII文字サンプル 【レラ1 等幅】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPORSTUVWXYZ[\)^_\abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ2 等幅】 ! "#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPORSTUVWXYZ[\pi^_\abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ3 等幅】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPORSTUVWXYZ[\pi]^_\abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ4 等幅】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPORSTUVWXYZ[\pi^\abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ5 等幅】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\pi^\abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ6 等幅】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>? @ABCDEFGHIJKLMNOPORSTUVWXYZ[\pi]^ \abcdefghiiklmnopgrstuvwxvz{|}~ ●標準フォント ASCII文字サンプル 【レラ1】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\formaller]^_` abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ2】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\)^_` abcdefqhijklmnopgrstuvwxvz{|}~ 【レラ3】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[¥]^_` abcdefqhiiklmnopgrstuvwxvz{|}~ !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\)^_` abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ5】 !"#\$%&'()*+.-./0123456789::<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\)^ \` abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~ 【レラ6】 !"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\)^_` abcdefghijklmnopgrstuvwxyz{|}~

●NEC特殊文字サンプル

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑪⑪⑫③⑭⑤⑰⑱⑩〗 I II II IV V VI VII VII X X テッ キー テン テーン テーシテネ ダ∀ス アックニ ト、 キン チンテネス゚゚ mm cm km mg kg cc ㎡ 빿 "、No.KK.TeL 上中下左右(株)(有)(代) 鵬大正翩 ≒ ≡ ∫ ∮ Σ √ ⊥ ∠ ∟ ⊿ ∵ ∩ ∪

●IBM拡張文字サンプル